

運転をするときは

SRS エアバッグについて

SRS エアバッグ	P.50
運転席・助手席 SRS エアバッグシステム	P.52
運転席・助手席 SRS サイドエアバッグシステム*	P.56
SRS カーテンエアバッグシステム*	P.58

お子さまの安全のために

お子さまを乗せるときは	P.60
チャイルドシート	P.62
チャイルドシート適合表	P.64

運転する前に

運転するときに注意すること	P.68
正しい運転姿勢について	P.69
シート	P.70
ELR（緊急固定）付 3 点式シートベルト	P.73
ハンドル	P.76
ルームミラー	P.77
ドアミラースイッチ	P.78

始動する

パワースイッチ	P.80
---------	------

走行する

セレクトレバー（ナビゲーションシステム付車）	P.82
セレクトレバー（ナビゲーションシステム無車）	P.84
パーキングブレーキ	P.86
発進	P.87
走行	P.89
停車・駐車	P.90
ECO モード	P.91
ASCD（オートスピードコントロール）*	P.92
ABS（アンチロックブレーキシステム）	P.94
VDC（ビークルダイナミクスコントロール）	P.95
ヒルスタートアシスト	P.97
車両接近通報装置	P.98

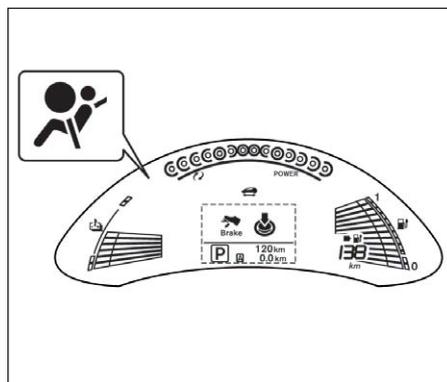
SRS エアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。
シートベルトは必ず着用してください。

SRS エアバッグの作動

SRS エアバッグは、電源ポジションが ON のときに作動可能です。

電源ポジションを ON にしたあと、約 7 秒間はメーター内の SRS エアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRS エアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。

SRS エアバッグは、正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収または分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くない場合には、必ずしも作動するとはかぎりません。



警告

- 電源ポジションを ON にしても SRS エアバッグ警告灯が点灯しないときや、点灯または点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。SRS エアバッグが正常に作動せず、重大な事故につながるおそれがあります。日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- 廃車するときや SRS エアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。
- SRS エアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

知識

- SRS とは、「Supplemental Restraint System」の略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

SRS エアバッグの注意事項

 警告

- SRS エアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRS エアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRS エアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRS エアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
 - － ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、前席シートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド

部などの SRS エアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRS エアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。

- － SRS エアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
- － 電気テスターを使って SRS エアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
- － エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

 注意

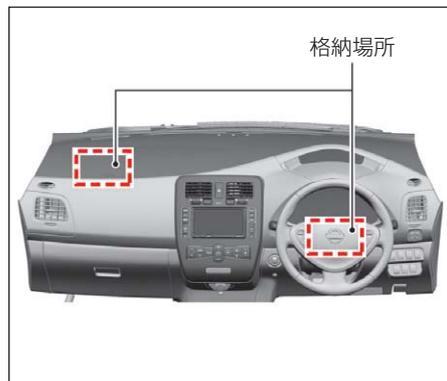
- SRS エアバッグは膨らんだあと高温になるため、30 分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRS エアバッグは高温のガスにより高速で膨らむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRS エアバッグが膨らむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがあります。ただし、SRS エアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

車両前方から強い衝撃を受けたとき SRS エアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

運転席 SRS エアバッグは、ハンドル部に格納されています。

助手席 SRS エアバッグは、助手席側インストルメントパネル部に格納されています。乗員がいなくても運転席と同時に作動します。



SRS エアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- － 25km/h 以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき
- － 車両前方左右、約 30° 以内の方向から強い衝撃（上記と同等）を受けたとき

次のような車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくとも乗員への衝撃は強いとき）

- － 高速で縁石などに衝突したとき
- － 深い穴や溝に落ち込んだとき
- － ジャンプして地面にぶつけたとき

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- － 停車している同クラスの車に約 50km/h 以下の速度で衝突したとき
- － 衝突時に折れない電柱などに約 30km/h 以下の速度で正面衝突したとき
- － トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき
- － 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

一度、SRS エアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- － 横方向や後ろから衝突されたとき
- － 横転、転覆したとき

⚠ 注意

- 助手席 SRS エアバッグが作動した衝撃で前面ガラスが割れることがあります。

📖 知識

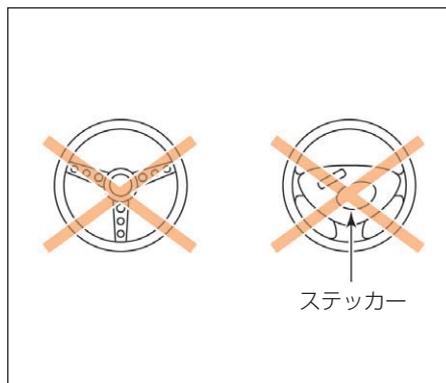
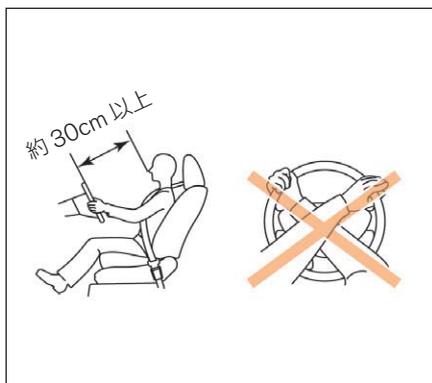
- 運転席、助手席 SRS エアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。

運転席・助手席 SRS エアバッグシステムの注意事項

⚠ 警告

運転席 SRS エアバッグシステム

- ハンドルから顔をできるだけ（約 30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなど SRS エアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。また、内がけでのハンドル操作はしないでください。
- 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRS エアバッグ格納部）にステッカーなどを貼らないでください。
- 前面ガラスにアクセサリなどを付けないでください。

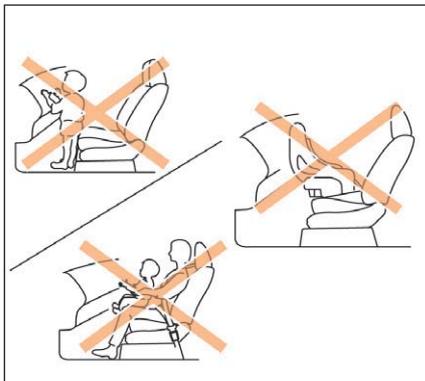


警告

助手席 SRS エアバッグシステム

- インストルメントパネル（SRS エアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまを SRS エアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

- チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法及び取り扱いまたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



- インストルメントパネル上面および前面にステッカーなどを貼ったり、アクセサリや芳香剤などを置かないでください。



車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側の SRS サイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRS サイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。



警告

- ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）の SRS サイドエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRS エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- シートカバーは、前席シート背もたれ側面を覆わないものをお使いください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRS エアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- － 一般的な乗用車に 25km/h 以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- － 側面に斜め方向から衝突されたとき
- － 側面にバイクが真横から衝突したとき
- － モータールーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- － 横転、転覆したとき
- － 斜め前方から衝突したとき
- － 電柱などに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

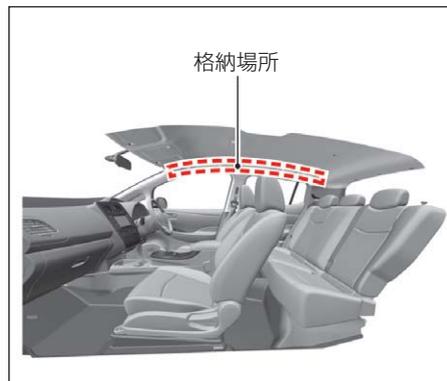
一度、SRS エアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- － 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- － 後ろから衝突されたとき

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側の SRS カーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和します。

格納場所

SRS カーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。



警告

- ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）の SRS カーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。
- 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRS エアバッグが誤作動するおそれがあります。
- センターピラー（ロックピラー）まわり、ルーフサイド部などの SRS カーテンエアバッグ格納部付近に、アクセサリーやハンガーなどを取り付けしないでください。

SRS エアバッグが作動するとき

次のような衝撃が強いときに作動します。

- － 一般的な乗用車に 25km/h 以上の速度で側面に真横から衝突されたとき

SRS エアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。

- － 側面に斜め方向から衝突されたとき
- － 側面にバイクが真横から衝突したとき
- － モータールーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき
- － 横転、転覆したとき
- － 斜め前方から衝突したとき
- － 電柱などに衝突したとき

SRS エアバッグが作動しないとき

一度、SRS エアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

- － 停車中や走行中の車に正面衝突したとき
- － 後ろから衝突されたとき

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことに注意してください。

お子さまは後席に

- 助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。また、助手席 SRS エアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などで SRS エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。
➡シートベルトのつけかた…P.73
- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートをお使いください。
➡チャイルドシート…P.62

チャイルドシートは後席に

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法および取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。
- 助手席には、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはできません。SRS エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。やむを得ず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。
- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。車室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドア、ウィンドーなどは大人が操作

- ドア、ウィンドーなどの開閉は、お子さまには操作させないでください。開閉時に手、首、足などを挟んだりして、重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドセーフティドアロック (🔒 P.144)やパワーウィンドーロックスイッチ (🔒 P.148)を使用し、お子さまが操作できないようにしてください。

窓から手や顔を出さない

- お子さまが手や顔を出さないように注意してください。急ブレーキ時に窓枠などにぶつかったり、車外の障害物に当たったりして、重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内にお子さまだけを残さない

- 車から離れるときは、必ずお子さまを一緒に降ろしてください。炎天下では車室内が高温になり、生命にかかわるおそれがあり危険です。
- お子さまのいたずらで車の発進、火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。

チャイルドシート

チャイルドシートの固定機構を使ってチャイルドシートを固定することができます。

チャイルドシートの種類

乳児用チャイルドシート：ECE R44 基準のグループ 0、0+に相当します。

チャイルドシート：ECE R44 基準のグループ 0+、I に相当します。

ジュニアチャイルドシート：ECE R44 基準のグループ II、III に相当します。

- 乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、ジュニアチャイルドシートの総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。
- この車は ECE R44 の基準に適合した ISO FIX 対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

チャイルドシートの質量グループ

ECE R44 の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により次のように分類されます。

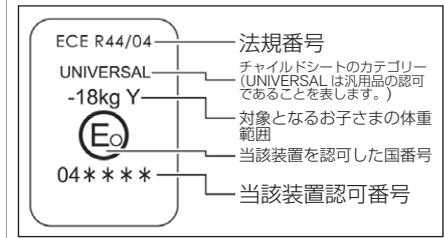
質量グループ	お子さまの体重
グループ 0	10kg まで
グループ 0 +	13kg まで
グループ I	9 ~ 18kg まで
グループ II	15 ~ 25kg まで
グループ III	22 ~ 36kg まで

⚠ 注意

- お子さまの年齢や体格にあった、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法及び取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

📖 知識

- ECE R44 はチャイルドシートに関する国際法です。ECE R44 の基準に適合した汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、認可マークが貼られています。



チャイルドシート

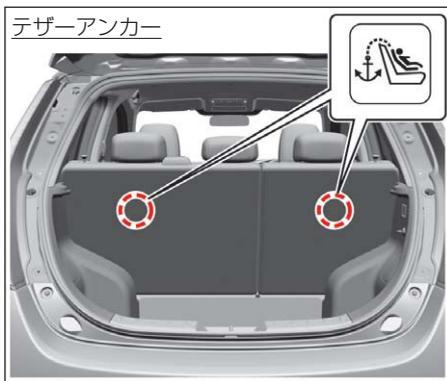
アンカーの位置

後席シートの左右には ISO FIX 対応チャイルドシートを取り付けるためのアンカー（固定装置）が装備されています。

- ISO FIX 対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マークの下側にあります。



- テザーアンカーは、背もたれの後ろ側にあります。



- 取り付けかたおよび取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

⚠ 警告

- チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどのかみ込むとチャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- ISO FIX 対応チャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置まで上げてください。

チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、ISO FIX 対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを確認してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

■ 選択の目安

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席左右	後席中央
0（10kg まで）	×	U	U
0+（13kg まで）	×	U	U
I（9～18kg）	L	U	U
II（15～25kg）	L	U	U
III（22～36kg）	L	U	U

U： この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。

L： 次の表に記載されている日産純正チャイルドシートの取り付けが可能です。

×： チャイルドシートを取り付けることはできません。

⚠ 注意

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者または販売業者にご相談ください。

■日産純正チャイルドシート

質量グループ	取り付け向き	商品名	
I (9 ~ 18kg)	前向き	チャイルド セーフティシート (E4 04443812)	ISO FIX 対応チャイルド セーフティシート (E4 04443716)
II (15 ~ 25kg)	前向き	ジュニアセーフティシート (E4 04443515)	
III (22 ~ 36kg)	前向き		

アドバイス

- ジュニアセーフティシートを使用するときは、ヘッドレストを外してください。

ISO FIX 専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	ISO FIX 位置 (車両側)	
			後席左右	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	×	-
	G	ISO/L2	×	-
0 (10kg まで)	E	ISO/R1	×	-
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	IL	-
	D	ISO/R2	×	-
	C	ISO/R3	×	-
I (9 ~ 18kg)	D	ISO/R2	×	-
	C	ISO/R3	×	-
	B	ISO/F2	IUF	-
	B1	ISO/P2X	IUF	-
	A	ISO/F3	IUF	-
II (15 ~ 25kg)	-	(1)	-	-
III (22 ~ 36kg)	-	(1)	-	-

IUF：この質量グループでの使用を認可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。

IL：この質量グループでの使用を認可された、次の表に記載されている「ISO FIX 対応ベビーシート」に適合しています。

×：チャイルドシートを取り付けることはできません。

(1)：サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置での ISO FIX 対応ベビーシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

⚠ 注意

- ISO FIX 対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前に ECE R44 の基準に適合していることを確認してください。詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

● 日産純正 ISO FIX 対応チャイルドシートについて

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0+ (13kg まで)	E	ISO/R1	ISO FIX 対応 ベビーシート	後向き	準汎用

⚠ 注意

- 日産純正 ISO FIX 対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。

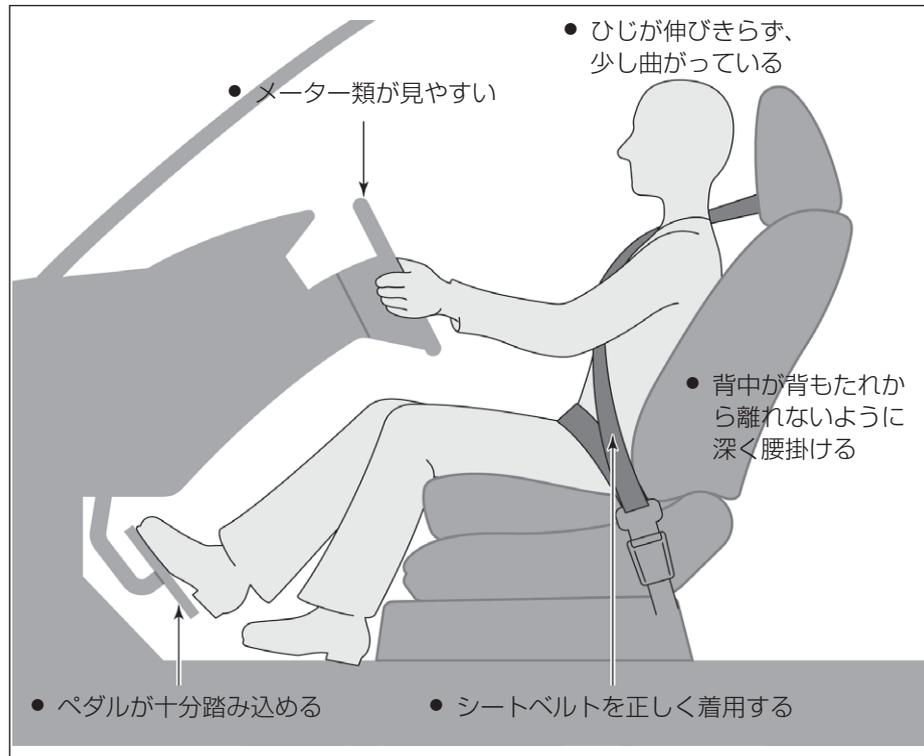
燃料が入った容器やスプレー缶などを積まない

- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。

アクセサリーと改造

- ウィンドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 車の性能や機能に適さない部品を装着したり、自己流の調整や配線などを行わないでください。正常な性能を発揮できなかったり、故障や火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 日産が国土交通省に届け出をした部品以外の物を装着すると、違法改造になることがあります。
- 次のような場合には日産販売会社にご相談ください。
 - ー タイヤ、ロードホイールの交換
指定以外のタイヤやロードホイールを装着しないでください。性能や機能に支障をきたし、安全な走行ができなくなるおそれがあります。
 - ー 電装品、無線機などの取り付け
適切でない電装品や無線機などを取り付けしないでください。電子機器部品に悪影響を及ぼしたり、誤った配線は故障や火災など、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、バッテリー端子に電装品やアース線などを直接つながらないでください。バッテリーが上がる可能性があります。
 - ー ハンドルの取り外しや交換
ハンドルの取り外しや交換を不適切に行うと、SRS エアバッグが正常に作動しなかったり、不意に作動したりして、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

正しい運転姿勢をとれるよう、ハンドル、シート、ミラーを調節してください。



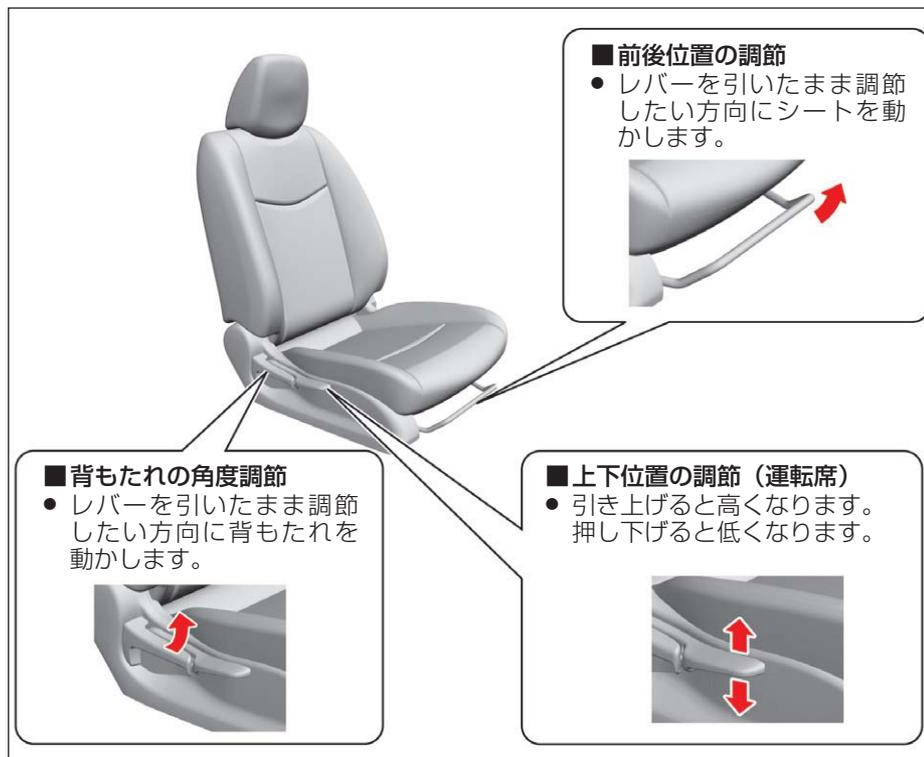
警告

- シート、ハンドル、ミラーの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 調節したあとは、確実に固定されていることを確認してください。シートやハンドルが固定されていないと運転姿勢が突然変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

- 背もたれと背中間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

前席シートの調節



⚠ 警告

- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体にあたり思わぬケガをするおそれがあります。
- 車室内を清掃するときやシートの下に落としたものを拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

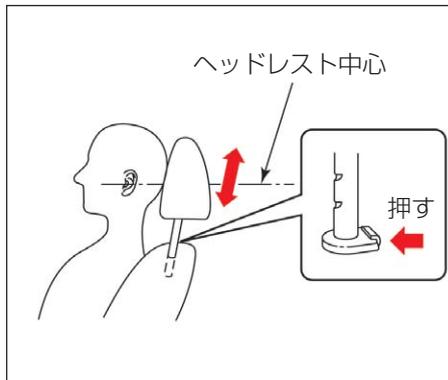
■ヘッドレストの使いかた

ヘッドレストの中心が、耳の高さになるように調節します。

- 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げ、下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

■ヘッドレストの脱着

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。



⚠ 警告

- ヘッドレストは外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッドレストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

後席シートの調節

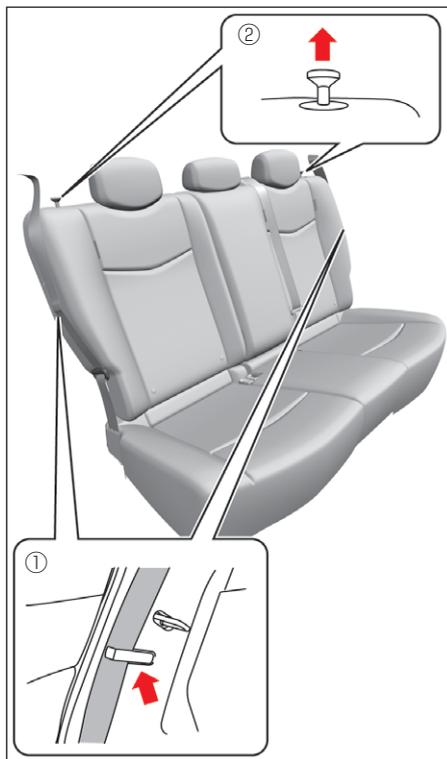
■ 背もたれの倒しかた

後席シートを折りたたみ、ラゲッジルームのスペースを広げることができます。左右別々に倒すことができます。

- シートベルトをクリップ①で留めてから操作してください。
- 後席シート左右にあるノブ②を引いたままゆっくりと背もたれを前に倒します。
- 元に戻すときは、背もたれを起こし、手で後方に押しつけてロックします。

■ ヘッドレストの使いかた

- ヘッドレストは、格納位置からロックする位置まで上げた状態で使います。
- 脱着のしかたは、前席シート(👉ヘッドレストの脱着…P.71)と同じです。



⚠ 警告

- ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

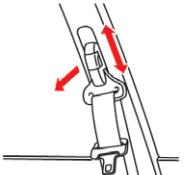
- 後席に人が乗っていたり、物や飲み物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、車室内を汚すおそれがあります。特にラゲッジルーム側から背もたれを倒すときは、後席が見えにくいので注意してください。
- ヘッドレストはロック位置まで上げ、確実に固定されていることを確認してから使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

🚗 アドバイス

- 背もたれを元に戻したとき、ノブの赤い部分が見える場合は、シートが正しくロックされていません。

通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックし身体を固定します。

シートベルトのつかかた

<p>1</p>	<p>タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させます。</p>	
<p>2</p>	<p>ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。</p>	
<p>3</p>	<p>肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。(前席のみ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ノブを引きながらアンカー部分を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。 ● 手を離れたあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させます。 	
<p>4</p>	<p>外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻します。</p>	

警告

- 肩ベルトのアンカー位置は確実に肩に掛かるように調節してください。また、アンカーは確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

アドバイス

- ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

運転をするときは

前席ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト

- 正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。
- 運転席・助手席 SRS エアバッグシステムと同時に作動します。
➡ SRS エアバッグ…P.50
- 運転席にはダブルプリテンショナー機構が付いています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引き込み、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。

警告

- プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

注意

- 電源ポジションを ON 後約 7 秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRS エアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。
- 廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

アドバイス

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかつたり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。使用方法、警告に従って正しく着用してください。

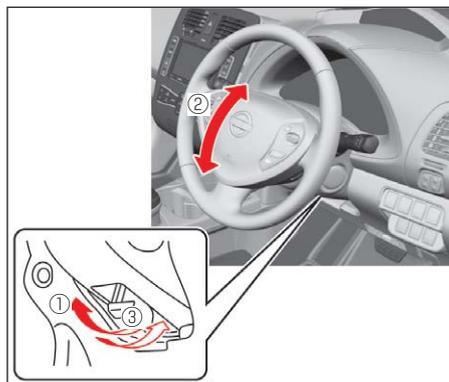
シートベルトの注意事項

警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
 - シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは以下のことを必ずお守りください。
 - － 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。
 - － ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。
 - － ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。
 - － 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。
 - － 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。
 - － シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。
 - シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
 - 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
 - お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
 - シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子様には、チャイルドシートをお使いください。
- 🔗 [チャイルドシート…P.62](#)
- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
 - シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

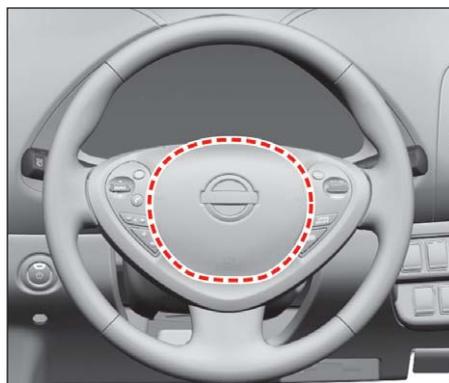
ハンドル位置の調節

- ①レバーを引き上げます。
- ②ハンドルを動かし、適切な位置で止めます。
- ③レバーを押し下げ、固定します。



ホーンの使いかた

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。



警告

- ハンドルの調節は、安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると、前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは、確実に固定されたことを確認してください。ハンドルが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります

ルームミラーの調節

ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。

夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、防眩切り替えレバーを手前に引くと反射が弱くなります。

昼間など通常走行時は防眩切り替えレバーを元の位置に戻してお使いください。



警告

- ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要ときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

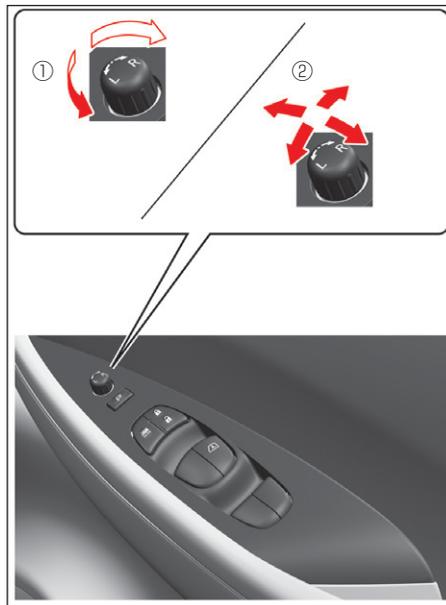
- ルームミラーのまわりに無線機やアクセサリなどを取り付けたり、配線から電源をとったりしないでください。インテリジェントキーの電波受信機が内蔵されているため、ドアの施錠・解錠やEVシステムの始動などができなくなるおそれがあります。

ドアミラースイッチ

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。
電源ポジションが ACC または ON のときに操作できます。

角度の調節

- 調節するドアミラー側にスイッチを回します。
(左側は L、右側は R)
- スイッチを動かして、鏡面角度を調節します。



警告

- ドアミラーの調節は走行前に行ってください。走行中の調節は前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- ミラーの映像は実際より遠くに見えるので注意してください。

知識

ヒーター付ドアミラー付車★

- 電源ポジションが ON のとき、リアデフォグガススイッチ([P.213](#))を押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。

格納のしかた

スイッチを押すと、左右のミラー本体が格納されます。

スイッチをもう一度押すと、元の位置に戻ります。



⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れないでください。手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- 手動で開閉すると走行中ミラーが前方または後方に倒れるおそれがあります。手動で開閉したあとは、走行前にスイッチで開閉操作を行ってください。

📖 知識

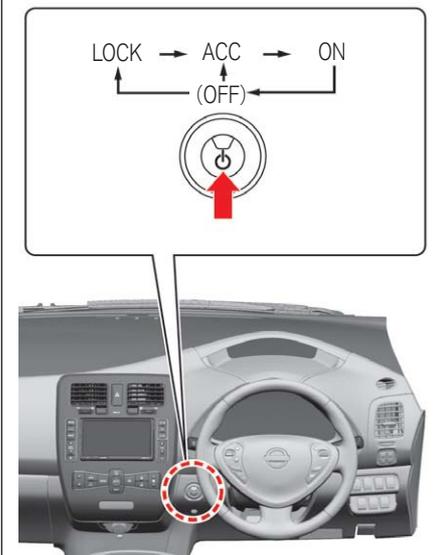
- スイッチ操作を連続して行くと、途中で停止することがありますが、故障ではありません。しばらくしてから作動させてください。
- 手動で開閉した場合、格納スイッチの位置により、電源ポジションをACCまたはONにしたときにミラーが動き出すことがあります。

各電源ポジションの働き

インテリジェントキーを携帯しているとき、ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと電源ポジションが切り替わります。

電源ポジション	働き
LOCK	電源ポジションがOFFのとき、いずれかのドアを開けるか、または閉めると電源ポジションがLOCKに切り替わります。
ACC	オーディオ、ドアミラーなどが使える位置
ON	すべての電装品が使える位置
OFF	電源が切れる位置

パワースイッチの切り替わりかた



アドバイス

- 次の条件がそろった状態で約 60 分経過すると自動的に電源ポジションが OFF になります。
 - － 電源ポジションが ACC のとき
 - － 全ドアが閉まっているとき
 - － シフトポジションが **P** のとき

知識

- ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押すと、電源ポジションが走行可能状態になります。

➡ 始動のしかた…P.87

警告

- 非常停止を行うときは、可能な限り減速してから行ってください。EVシステムを停止するとブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、車両のコントロールが難しくなります。

EV システムの非常停止のしかた

緊急時など、走行中に EV システムを強制的に停止させるときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチをすばやく 3 回押す
- パワースイッチを 2 秒以上押し続ける

イモビライザー（盗難防止装置）

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、インテリジェントキーに送信機を内蔵し、あらかじめ登録されているインテリジェントキー以外での始動を禁止するシステムです。

- イモビライザーが働いているときは、セキュリティインジケータ（[➡P.120](#)）が点滅します。



アドバイス

- 電源ポジションを ON にしたときにセキュリティインジケータが点灯し続ける場合は、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

知識

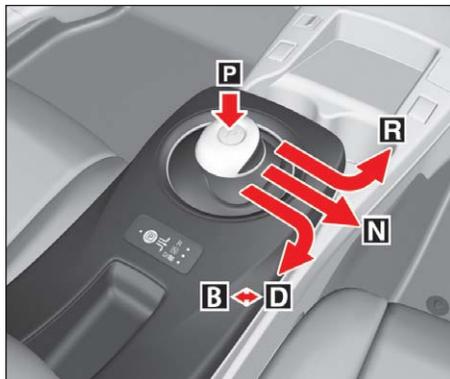
- インテリジェントキーに登録された信号は、インテリジェントキーごとに異なります。

走行可能表示灯が点灯しているとき、すべてのシフトポジションに切り替えることができます。

セレクトレバーの操作

セレクトレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。メーター内の車両情報ディスプレイのポジションインジケータで、目的のシフトポジションが切り替わったことを必ず確認してください。

P	セレクトレバー上部のⓂスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーをゲートに沿って車両前方にスライドさせます。
N	ブレーキペダルを踏みながら、右にスライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーをゲートに沿って右手前にスライドさせます。
B	D のときに右手前へスライドすると B に切り替わります。もう一度スライドすると D に戻ります。



⚠ 注意

- セレクトレバーには物を掛けないでください。車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーを中央の位置以外で保持し続けしないでください。故障の原因になります。

知識

- セレクトレバーが中央に無いときは、Ⓜスイッチを押しても**P**に切り替えられません。また、Ⓜスイッチを押しながら、セレクトレバーを操作しても、他のシフトポジションには切り替えられません。
- シフトポジションを**R**に切り替えるとブザーが鳴ります。

各シフトポジションの働き

シフトポジション	役割
P	駐車および EV システムを始動するときの位置
R	後退するときの位置
N	動力が伝わらない状態の位置
D	通常走行するときの位置
B	下り坂などで、強いブレーキが必要なときの位置 (満充電時、低温時などはブレーキが弱くなる場合があります。)

知識

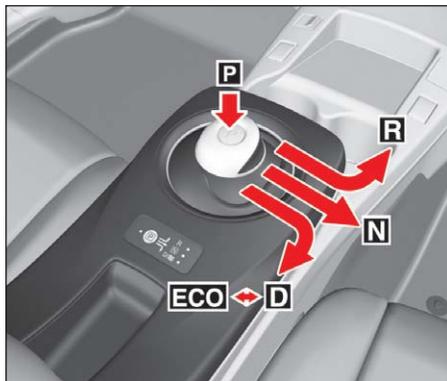
- シフトポジションを **P** に切り替えずに電源ポジションを OFF にすると、自動的にシフトポジションが **P** に切り替わります。(オート P 機能)
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションは **N** に切り替わります。
 - 前進中にシフトポジションを **R** に切り替える
 - 後退中にシフトポジションを **D** に切り替える
- 充電中はシフトポジションを切り替えることができません。

走行可能表示灯  が点灯しているとき、すべてのシフトポジションへ切り替えることができます。

セレクトレバーの操作

セレクトレバーは、操作後に手を離すと中央に戻ります。メーター内の車両情報ディスプレイのポジションインジケータで、目的のシフトポジションが切り替わったことを必ず確認してください。

P	セレクトレバー上部のⓄスイッチを押します。
R	ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーをゲートに沿って車両前方にスライドさせます。
N	ブレーキペダルを踏みながら、右にスライドさせ、しばらく保持します。
D	ブレーキペダルを踏みながら、セレクトレバーをゲートに沿って右手前にスライドさせます。
ECO	D のときに右手前へもう一度スライドすると ECO モードの ON・OFF が切り替わります。 ➡ ECO モード…P.91



⚠ 注意

- セレクトレバーには物を掛けないでください。車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあります。

アドバイス

- セレクトレバーを中央の位置以外で保持し続けしないでください。故障の原因になります。

知識

- セレクトレバーが中央に無いときは、Ⓞスイッチを押しても **P** に切り替えられません。また、Ⓞスイッチを押しながら、セレクトレバーを操作しても、他のシフトポジションには切り替えられません。
- シフトポジションを **R** に切り替えるとブザーが鳴ります。

各シフトポジションの働き

シフトポジション	役割
P	駐車および EV システムを始動するときの位置
R	後退するときの位置
N	動力が伝わらない状態の位置
D	通常走行するときの位置
ECO	航続可能距離を延ばしたいときに ON にします ⤵ ECO モード…P.91

📖 知識

- シフトポジションを **P** に切り替えずに電源ポジションを OFF にすると、自動的にシフトポジションが **P** に切り替わります。（オート P 機能）
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションは **N** に切り替わります。
 - － 前進中にシフトポジションを **R** に切り替える
 - － 後退中にシフトポジションを **D** に切り替える
- 充電中はシフトポジションを切り替えることができません。

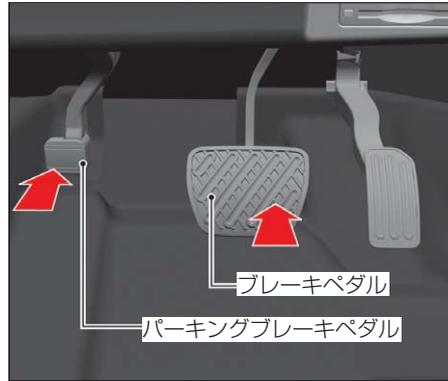
運転をするときは

パーキングブレーキ

パーキングブレーキをかけると後輪が固定されます。

パーキングブレーキのかけかた

- パーキングブレーキをかけるときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルをいっぱい踏み込みます。



パーキングブレーキの解除

- 解除するときは、右足でブレーキペダルを踏みながら、左足でパーキングブレーキペダルを“カチッ”と音がするまで踏み、ゆっくりと離します。

警告

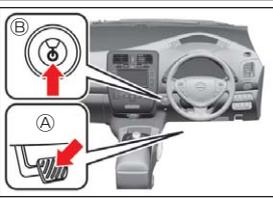
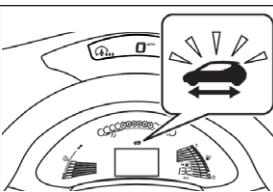
- パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。ブレーキが過熱しブレーキの効きが悪くなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- 駐車するときは、必ずパーキングブレーキをかけてください。
- パーキングブレーキをかけたあとにパーキングブレーキをかけ直したいときは、一度解除してから踏み込み直してください。

インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、キーを取り出すことなく始動できます。
インテリジェントキーは、必ず運転者が携帯してください。

始動のしかた

<p>1</p>	<p>アクセルペダルとブレーキペダルの位置を確認し、正しい運転姿勢 (➡ P.69) がとれるようにハンドル、シート位置を調節します。</p>	
<p>2</p>	<p>ブレーキペダル (A) をしっかりと踏みながら、パワースイッチ (B) を 1 回押します。</p>	
<p>3</p>	<p>メーター内の走行可能表示灯が点灯し、走行可能状態になります。</p>	

警告

- ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。右足でアクセルペダルとブレーキペダルを交互に踏み、その位置を確実に覚えてください。

注意

- 始動するときは、必ず運転席に座って行ってください。車外から行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

- ブレーキペダルを踏んだり離したりしたとき、“カチッ”と音が聞こえることがありますが異常ではありません。

運転をするときは

発進のしかた

1	ブレーキペダルを右足でしっかりと踏んだまま、セレクトレバーを右手前にスライドさせ、シフトポジションを D に切り替えます。	
2	シフトポジションが切り替わったことを目で確認します。	
3	パーキングブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキを解除します。	
4	ブレーキペダルを徐々にゆるめ、アクセルペダルをゆっくり踏み発進します。	

警告

- 発進時は、絶対にアクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しないでください。急発進し、重大な事故につながるおそれがあります。

注意

- シフトポジションが **P**、**N** 以外にあると、クリープ現象で車が動き出すので、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

知識

- 電制シフトの故障などにより、メーター内の車両情報ディスプレイでシフトポジションを確認できないときは、セレクトレバー手前のシフトインジケーターで確認してください。
- 急な上り坂で発進するときは、ヒルスタートアシスト(➡ P.97)が作動します。

走行のしかた

- シフトポジションを **D** にしたまま走行します。アクセルペダルとブレーキペダルの操作で、加速、減速を行います。
- 高速道路の入り口などで急加速したいときは、アクセルペダルをいっぱい踏み込むと急加速します。
- 下り坂では、回生ブレーキ (P.10) を併用して走行します。シフトポジションが **D** のときより **B** (ナビゲーションシステム付車) または ECO モードが ON (ナビゲーションシステム無車) のほうが、回生ブレーキが強くなります。スピードが出すぎるときは、必要に応じてブレーキペダルを踏んで減速してください。

警告

- 走行中はシフトポジションを **N** に切り替えないでください。回生ブレーキが作動しないため、事故につながるおそれがあります。

注意

- 上り坂ではクリーブ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。
- 上り坂でシフトポジションを **D** または **B** (ナビゲーションシステム付車) のまま故意に車両を後退させたり、下り坂で **R** のまま故意に車両を前進させたりしないでください。事故につながるおそれがあります。

知識

- 走行中にセレクトレバー上部のⓅスイッチを押した場合、操作が無効とされ、ブザーが鳴るとともにそのときのシフトポジションが維持されます。

停車・駐車のかた

<p>1</p>	<p>停車するときは、シフトポジションは D または B (ナビゲーションシステム付車) のままで、ブレーキペダルをしっかりと踏みます。</p>	
<p>2</p>	<p>そのまま駐車するときは、ブレーキペダルを踏んだままパーキングブレーキをかけます。</p>	
<p>3</p>	<p>セレクタレバー上部のⓄスイッチを押し、シフトポジションを P に切り替えます。</p>	
<p>4</p>	<p>パワースイッチを 1 回押します。電源ポジションが OFF になり、EV システムが停止します。</p>	

警告

- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたりしないでください。荷物を押しこんだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して、火災につながるおそれがあります。

アドバイス

- 上り坂で停車するときは、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。
- 炎天下で駐車するときは、車室内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車室内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。

ECO モードを ON にすると、航続可能距離を延ばすことができます。

ECO モードについて

ECO モードは、次のような消費電力を抑えることにより、航続可能距離を延ばします。

- 走行用モーターに供給する電力
- エアコンの電力

ECO モードの使いかた

■ ナビゲーションシステム付車

- ハンドルにあるスイッチを押すごとに ON / OFF が切り替わります。(ON になるとメーター内にある車両情報ディスプレイのインジケータが点灯)



■ ナビゲーションシステム無車

- シフトポジションが **D** のとき、セレクトレバー(➡P.84)を **D** の方向にスライドさせるごとに ON / OFF が切り替わります。(ON になるとメーター内にある車両情報ディスプレイのインジケータが点灯)



📖 知識

- ECO モードの設定の ON・OFF は、電源ポジションを OFF にしても、再度設定変更するまで、その状態が維持されます。
- ECO モードを解除するときは、スイッチを操作したあと、一旦アクセルペダルから足を離し、再度必要な分だけ踏み込んでください。
- 次のような加速が必要な場合は、必要に応じて ECO モードを OFF にしてください。
 - － 乗車人員や荷物量が多いとき
 - － 急こう配を登坂走行するとき
- ASCD (オートスピードコントロール)*を使用しているときは、ECO モードを ON にしても航続可能距離を延ばすことはできません。

★：車両型式、オプションなどで異なる装備

ASCD をセットすると、アクセルペダルを踏まなくても一定の速度 (約 40 ~ 100km/h) で走行できます。

表示灯・スイッチの機能

■ステアリングスイッチ

①キャンセルスイッチ

- ASCD を解除します。

②リジューム／アクセラレートスイッチ (上押し)

- 設定速度を上げます。
- ASCD を解除後、解除前の設定速度に再度セットします。

③セット／コーストスイッチ (下押し)

- 設定速度を下げます。
- ASCD をセットします。

④メインスイッチ

- ASCD の ON・OFF ができます。

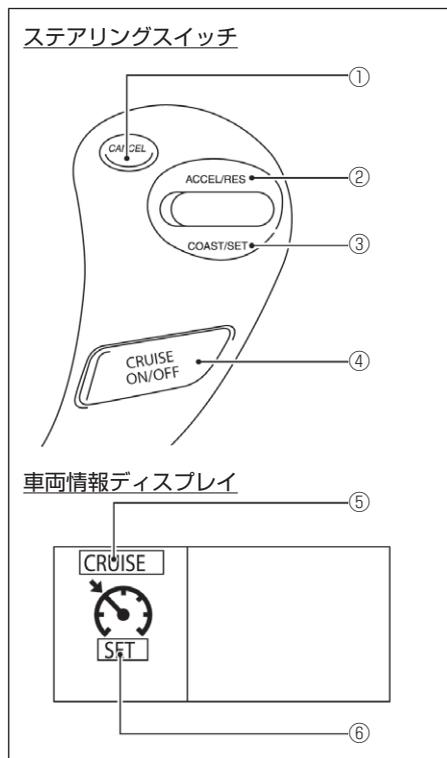
■車両情報ディスプレイ

⑤クルーズ表示

- メインスイッチを ON にすると点灯します。

⑥セット表示

- ASCD 作動中に点灯します。

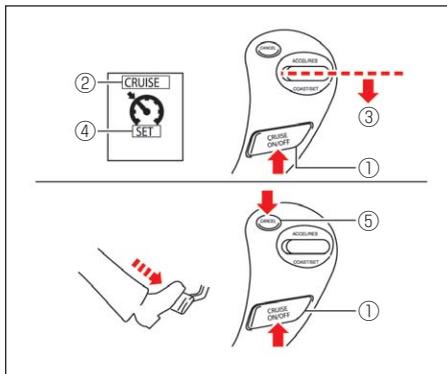


⚠ 注意

- ASCD を使用する場合は、十分な車間距離をとってください。
- 次の状況では、ASCD を使用しないでください。
 - － 交通量の多い道や急カーブのある道
 - － 凍結路や積雪路など滑りやすい路面
 - － 急な下り坂
- ASCD を使用しないときは、メインスイッチを必ず OFF にしてください。
- セット表示が点滅した場合は、一度パワースイッチを OFF にしてから再度セットしてください。点滅が続いたりセットできない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

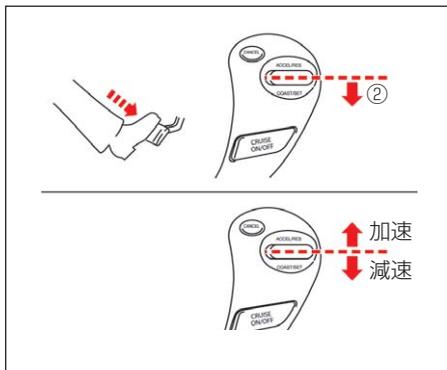
セットのしかた／解除のしかた

- メインスイッチ①を押します。
(メーター内にある車両情報ディスプレイのクルーズ表示②が点灯)
- 設定したい速度まで加速または減速し、セット／コーストスイッチ③を押します。(メーター内にある車両情報ディスプレイのセット表示④が点灯)
- 解除するときは、キャンセルスイッチ⑤またはメインスイッチ①を押すか、ブレーキペダルを踏みます。



設定速度の変えかた

- ペダルで変えるとき
アクセルペダルまたはブレーキペダルを踏み、速度を変えます。希望の速度になったらセット／コーストスイッチ②を押します。
- ステアリングスイッチで変えるとき
リジューム／アクセラレートスイッチを押し続けると加速し、セット／コーストスイッチを押し続けると減速します。希望の速度で手を離します。



アドバイス

- 一時的に加速したい場合は、アクセルペダルを踏みます。
- 解除後は、セット待機状態になります。もう一度、定速走行にする場合は、再度リジューム／アクセラレートスイッチを押します。(メーター内にある車両情報ディスプレイのセット表示が再点灯)
- 次の場合は、自動解除されます。
 - － VDC が作動したとき
 - － タイヤが空転したとき
 - － シフトポジションを **N** に切り替えたとき
 - － システムに異常があるとき

ABSとは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤのロックを防止して、車両の安定性を向上させると共にハンドル操作による障害物回避をしやすいシステムです。

ABS について

急ブレーキを踏まなければいけないような状況に陥らないよう、安全運転を心がけることが大切です。万一の危険な状況では次のようにしてください。

- 危険だと感じたら、ためらわず思い切りブレーキペダルを踏み込んでください。
- ABS が作動すると、ブレーキペダルに振動が伝わったり、作動音が聞こえたりします。これは ABS の正常な作動によるものです。そのままブレーキペダルを踏み続けてください。
- 障害物回避の際には、ブレーキペダルを踏みながらハンドル操作をしてください。
- 電源ポジションを ON にしたときや、始動後最初の発進時に、モータールームから音が聞こえることがありますが、これはシステムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

なお、車両を確実に停止させるため ABS は低速では作動しません。路面の状況により異なりますが約 10km/h 以下では作動しません。

警告

- ABS はあくまでも運転者のブレーキ操作を補助するシステムです。ABS の付いていない車と同様に、カーブの手前では十分な減速が必要です。早め早めの操作で安全運転をしてください。
- ABS はブレーキ時の車両の安定性、操舵性を確保しようとするための装置で、制動距離が短くなるとは限りません。でこぼこ道、じゃり道、積雪路などでは、ABS の付いていない車より制動距離が長くなる場合があります。このような道を走行するときは、特に速度を控えめにし、車間距離を十分とって運転してください。
- ABS は各車輪の回転速度をセンサーで検出しています。タイヤ交換時は、必ず指定サイズのタイヤを 4 輪に装着してください。指定サイズ以外では ABS が正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

VDC は横滑りや尻振りを起こしそうになると横滑り状態をセンサーで判別し、走行時の車両安定性を向上させるシステムです。

VDC について

- VDC の作動と表示灯
 - － VDC が実際に作動しているとき、メーター内の警告灯  が点滅します。
 - － VDC システム内のトラクションコントロール機能のみが作動しているときも 警告灯  が点滅します。
 - － 警告灯  が点滅したときは、車両が滑りやすい状態になっていますので特に慎重に運転してください。
- VDC には「ブレーキ LSD」機能があります。これは滑りやすい路面などで駆動輪が空転した場合、空転している駆動輪にブレーキをかけることにより、もう一輪の駆動力を確保する LSD (リミテッドスリップデフ) 機能です。
- VDC 作動時は、ブレーキの作動により音や振動を発生する場合がありますが異常ではありません。

⚠ 注意

- この装置は車両の走行安定性を向上させるもので事故を防止するものではありません。VDC の作動にも限界があるため、滑りやすい路面やカーブの手前では特にスピードを落とし安全運転に心がけてください。
- 次のときは VDC 警告灯が点灯し、VDC が正常に作動しないことがあります。
 - － サスペンション、タイヤ、ブレーキなどを純正品以外に交換したり、改造したとき
 - － サスペンション、タイヤ、ブレーキなどが著しく摩耗及び劣化した状態で走行したとき
- 次のような状況では、VDC 警告灯が点灯することがあります。この場合は一度電源ポジションを OFF にし、再度走行可能状態にすると消灯します。
 - － 駐車場の入り口などにあるターンテーブルや動く物の上に車があるとき
 - － 極端に傾いた特殊な路面 (サーキット路に見られるバンクなど) を走行したとき
- VDC 付車でも雪道などでは冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

運転をするときは

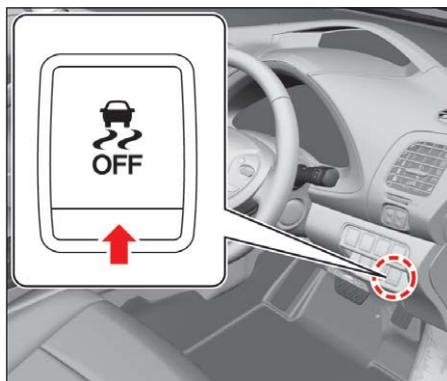
VDC OFF スイッチの使いかた

VDC の作動をやめたいときに使います。

- VDC OFF スイッチを押すと、VDC の働きを停止します。

(メーター内の表示灯  が点灯)

- もう一度スイッチを押すか、EV システムを再始動すると VDC は作動を回復し、メーター内の表示灯が消灯します。



アドバイス

- ぬかるみや雪道から脱出するときなどは、スリップ状態を感知し、アクセルペダルを踏み込んででも出力が上がらないことがあります。回転数を上げたいときは VDC OFF スイッチを押してシステムを OFF にしてください。
- VDC OFF スイッチを押すと、ABS 機能およびブレーキ LSD 機能を除く VDC のすべての機能が停止します。

知識

- VDC が作動すると発進時や加速時に車体およびペダルにわずかな振動と作動音が発生しますが異常ではありません。
- 電源ポジションを ON にしたときや、始動後最初の発進時に、モータールームから音が聞こえることがありますが、システムの作動をチェックしている音で異常ではありません。

ヒルスタートアシストは、坂道での発進を補助します。

ヒルスタートアシストについて

- 急な上り坂での発進時に、ブレーキペダルからアクセルペダルへの踏み替えの間に発生する車両の後退を一定時間保持し、発進を容易にするシステムです。
- シフトポジションが **P**、**N** 以外するとき、ブレーキペダルから足を離すと、約 2 秒間ブレーキ力を保持します。

⚠ 注意

- この装置は上り坂での発進を補助するものですが、機能を過信しないでください。凍結した坂や泥状の上り坂での発進は特に安全運転に心がけてください。
- 坂道で駐停車するためにヒルスタートアシストを使わないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

📖 知識

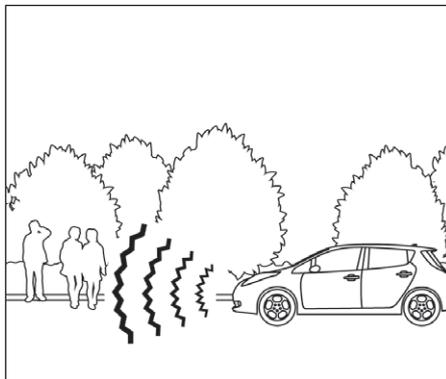
- VDC 警告灯(👉P.114)が点灯したときは作動しません。
- ヒルスタートアシストが作動しているとき、ブレーキペダルの踏みごたえが変化したり、音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

車両接近通報装置は、低速走行中に車両が接近していることを音で歩行者に知らせます。

車両接近通報装置について

車両接近通報装置は、電源ポジションが走行可能状態で次の場合に作動します。

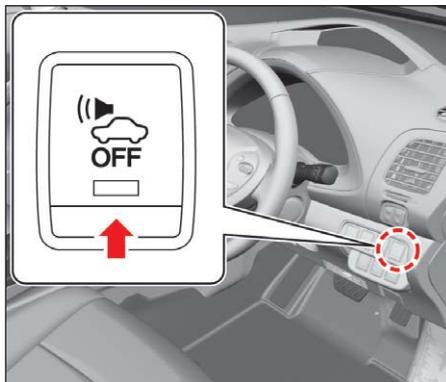
- 発進時、車速が 30km/h 以内のとき
- 減速時、車速が 25km/h 以下になったとき
- シフトポジションが **R** のとき



車両接近通報装置一時停止スイッチ

車両接近通報装置は、音を消すことができます。

- スイッチを押すと、一時的に音がなくなります。
(スイッチの表示灯が点灯)
- もう一度スイッチを押すか、EV システムを再始動すると、再び音が出ようになります。
(スイッチの表示灯が消灯)



⚠ 注意

- 車両接近通報音は高速道路での渋滞など、周囲に音を出して注意を知らせる必要が明らかでない場合を除き、一時停止状態にしないでください。
- 車両接近通報装置を一時停止状態にして走行すると、車両の接近に歩行者が気付かず、事故の原因になるおそれがあります。
- 車両接近通報音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車し、音が聞こえるか点検してください。ブレーキペダルを確実に踏みながら、シフトポジションを **R** にし、窓を開けて音が聞こえるか確認してください。車両前方から音が聞こえないときは、日産販売会社へご連絡ください。